

平成24年度木造建築技術先導事業の応募概要 及び同事業評価委員会の講評について

平成24年度木造建築技術先導事業における応募の状況及び「木造建築技術先導事業評価委員会」において出された全体講評について、下記のとおり公表致します。

記

1. 応募状況

本事業の補助対象となる事業として、「建築物の木造化」(以下「木造化」という。)及び「建築物の内装・外装の木質化」(以下「木質化」という。)の2種類を設け、平成24年5月18日から6月22日までの期間で公募を行ったところ、10件(木造化9件(うち1件は提案者側の都合により取り下げ)、木質化1件)の応募があった。

2. 評価の経緯

評価は、一般社団法人木を活かす建築推進協議会に設置した、学識経験者からなる「木造建築技術先導事業評価委員会」(以下「評価委員会」という。)において、以下の手順で実施した。

まず、応募のあった各提案の内容について、要件への適合、構造・防火面における技術の先導性、建築生産システムについての先導性、一般への普及・啓発効果等の観点から、書類審査を行った。

その結果、内容について詳細な追加情報が必要とされた提案については、さらに当該提案者に対するヒアリング審査を行い、本事業による支援対象として適切と思われる提案を選定した。

3. 評価結果

上記2の評価により、本事業による支援対象として適切と判断した6件のプロジェクト(全て木造化)は、別紙のとおりである。

4. 全体講評

今回の応募案件の中には、地元産の木材の利用を推進するもの、大断面による燃えしろ設計を採用するもの、一般流通材の使用による生産面、施工面のローコスト化を図るものなど、多様な提案が見られた。その中で、新しく開発された構造部材を採用する計画や、新しい発想を取り入れることによりこれまでにない小断面による準耐火木造の構造体を実現させる計画など、先進性に優れたプロジェクトが特に高い評価を得た。

採択となったプロジェクトについては、木造化についての十分な検討がなされており、構造、防火、生産、施工等の面での工夫が見られ、いずれも先導的な木造建築物として波及・普及効果が期待できる内容であった。(採択案件ごとの講評については、別紙参照。)

一方、今回採択に至らなかった提案の中には、木材を積極的に活用しようとする姿勢はみられるものの、具体性に欠ける提案となっているものや、構造・防火面等における工夫に欠けるものもあった。

5. 評価のポイント

本事業の評価のポイントとして以下の項目が挙げられる。今後の提案内容の検討に際しての参考とされたい。

(1) 構造、防火面における先導性等について

構造面(例:構造部材、接合方法又は既存の構造方法の組合せ)や防火面(例:燃えしろ設計、耐火部材の使用等)において先導性を有するとともに、それらの技術の実現に支障がないと判断されるものであること。

(2) 建築生産システムにおける先導性等について

効率的な生産方法や施工方法の導入など、生産面で先導性に優れた技術等が導入される事業計画であること。また、コスト面で課題となる木材料の調達等について工夫が見られること。

(3) 技術等の普及可能性について

上記(1)及び(2)の先導的な技術等が、公開できるもの又は第三者が当該技術の考え方等を応用して類似の設計を行うことが可能なものであること。

(4) その他の評価ポイントについて

上記(1)から(3)に加え、用途、規模、立地条件等による話題性・普及性、国産材の積極的な活用の提案があれば、評価の対象となる。

(参考)平成24年度木造建築技術先導事業評価委員会／委員名簿

委員長	大橋 好光	東京都市大学／工学部建築学科教授
委員	五十田 博	信州大学／工学部建築学科教授
委員	腰原 幹雄	東京大学／生産技術研究所教授
委員	長谷見雄二	早稲田大学／理工学術院教授
委員	萩原 一郎	(独)建築研究所／防火研究グループ上席研究員
委員	林 知行	(独)森林総合研究所／研究コーディネータ

(敬称略。委員については、50音順)